

## 小学校5・6年生への「教科担任制導入」について考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 来年2020年より、教育大改革が始まります。柱は2つあり、その1つは大学入試や大学経営を大幅に変えようというものです。もう1つは、小学校・中学校・高校の教科や教え方を大幅に変えようというものです。
3. 後者の一環として、今までの日本ではあまり行われていなかったことが取り入れられようとしています。それは、小学校の5・6年生に教科担任制を大幅に導入しようということです。従来の小学校は、音楽などは違う場合がありますが、クラス担任がほとんどの教科を教えています。
4. ところが、中学校ではガラッと変わります。もちろんクラス担任の先生もいらっしゃって、授業開始前や終了後のホームルームなどで話をしたり、学級活動・学校行事などの取り組みへのサポートをしたりします。しかし、授業に関しては、英語、数学、理科、社会、国語、保健体育、音楽、美術、技術・家庭のすべての教科で、それぞれの専門の先生が教えます。高校も大学も専門学校も短期大学も同じようになっています。
5. ただ、教育大改革により、2020年度からは英語が小学校の正式な教科になり、プログラミングも含めて専門性の高い先生が必要となります。そうであるのに、大学の小学校教員養成課程で英語の教え方について専門的な教育を受けた方が多いかというのと、そうではないようです。一所懸命に勉強なさった方の中には英語の教え方の専門的な教育を受けた方もいらっしゃるかもしれませんが、そうでない方が大半です。そこで、中学校や高校には英語の専門の先生がたくさんいらっしゃいますので、その方々に活躍していただくという考えがあります。また、英語を含み、プログラミングの教科も、専門の先生の指導していただくのが小学校にとって大事だという考えがあります。このようなことから、小学校の5、6年生に教科担任制が導入されようとしているのです。

6. ここで、他の国の事情を少しお話します。ヨーロッパの多くの国々やアメリカには、**classroom teacher** つまりクラス担当教員と、**subject teacher** つまり教科担当教員がいます。**classroom teacher** は小学校 1 年生から 4 年生までを、**subject teacher** は 5 年生から上の学年を担当しているようです。例えば、英語の先生は、小学校の 5 年生ぐらいから高校 3 年生までの児童・生徒さん全部を担当します。数学の先生も社会の先生も同じです。ただ、**subject teacher** が担当する初めの学年は国によって違いがあり、多くの国では小学校 4 年生ないし 5 年生からのようです。

7. 日本も、遅ればせながら、小学校でも教科の専門の先生が教えようという動きになってきました。それが、2020 年からの教育大改革です。

今でも、理科や音楽については、専門の先生が小学校 5、6 年生からかなり教えていたようです。特に音楽は、1 年生、2 年生は 10 %、20 %ですが、3 年生になると 40 %ぐらい、4 年生、5 年生になると 50 %ぐらい、6 年生になると 60 %以上のクラスで、専門の先生が教えているというのが現状です。

8. 2020 年度から小学校 5、6 年生の正規の授業教科となる英語の場合は、クラス担任で英語を専門とする先生は、現時点で 5 年生が 12 %、6 年生が 13 %だそうです。これでは間に合わないということで、英語は少しずつ専門の先生に担当していただくことになるようです。また、プログラミングについても、小学校の先生方の中にはスキルがある方がいる一方で、不得意な方も多いためかもしれませんので、専門の先生方に活躍していただくことが増えてきます。これが教育大改革です。

私はこれに大賛成で、できれば小学校 1 年生ぐらいから専門の先生に教えていただいたほうがよい教科もあると思っています。具体的には、美術や音楽、体育は専門の先生のほうがよいかもしれません。ぜひ、検討していただければと思います。

9. 最終的な形はどのようになるかわかりませんが、中央教育審議会では教員の配置の在り方をはじめとする議論がたくさんされています。ぜひ関心をもっていただき、ご意見のある方は文部科学省に意見書やパブリックコメントをどんどん出していただければと思います。よろしくお願いいたします。